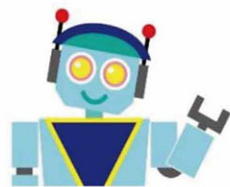


# 6 科学館ニュース



## センサーハーブのしくみ

～どうして音が鳴るのかな？～

展示室には、旧青少年科学館の時代の1997年からおよそ30年間も展示を続けている「センサーハーブ」があります。弦がないのに弦がありそうところに手を入れるとなんと音が鳴ります。この不思議な現象はどうして起きるのでしょうか？



そのヒミツは『赤外線！』…

では『赤外線』ってなんだろう？

### センサーハーブのしくみ

センサーハーブには上と下に小さな穴があります。下の穴には赤外線を発生させる装置、上の穴には赤外線を受け取るセンサーがついています。

下から出ている赤外線が人の手でさえぎられると、電気の信号が切れて、それをキャッチしセンサーから音がでるのです。音の信号は、音階になっているため、音楽を奏でることができるのです。

**赤外線**は、太陽やストーブをはじめなんと人間の体からも出ています。つまり、あたたかいものが出す人の目にはみえない光のことです。



▲展示室のセンサーハーブを試してみてくださいね

## 『赤外線センサー』は、たくさん使われている

赤外線センサーは、まわりにある赤外線（ぬくもり）を感じ取って、

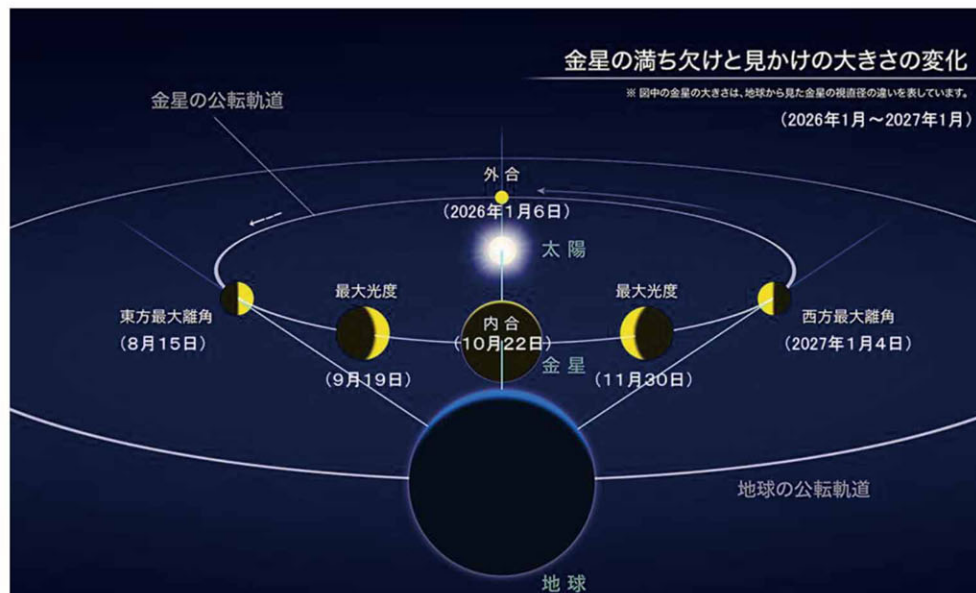
・何か近づいた ・人が通った ・温かいものがあるなどを判断します。

赤外線センサーは、見えない“あたたかい光”を感じて、何か動いたり近づいたりしたことを教えてくれる道具です。

このような赤外線の仕組みを利用したものが、私たちの身の回りにはたくさんあります。ほかにもどんなものがあるか調べてみましょう。



## 観察しよう！ 宵の明星『金星』



▲金星が図の左側にある時は日没後の西の空に、右側にある時は夜明け前の東の空に見えます。

### ☆今後の金星の動き

月日	惑星現象	説明
1月6日	がいごう外合	地球・太陽・金星が一直線に並ぶ。この日を境に見える時間帯が日の出前から日没後になる。
8月15日	とうほう東方最大離角	金星が見かけ上太陽のもっとも東側に離れ、このころ夕方の西の空で見やすくなる。
9月19日	さいだいこうど最大光度	金星が夕方の西の空でもっとも明るく見え、このときの光度はマイナス4.8等
10月2日 11月12日	りゅう留	惑星の運動方向(順行・逆行)が変わる時期で、動きが止まっているように見える。
10月22日	ないごう内合	地球・金星・太陽が一直線に並ぶ。金星の見かけの位置が太陽に近く観察しにくい
11月30日	最大光度	金星が日の出前の東の空でもっとも明るく見え、このときの光度はマイナス4.9等

日が沈んだ夕空に、ひときわ明るい星が見えています。『宵の明星』と呼ばれる金星です。

今年の金星は、秋に『明けの明星』となるまで、惑星ならではの現象を観察できます。

今年の金星の『最大光度』は2回あります。

9月19日は宵の明星として西の空で、11月30日は明けの明星として東の空で見ることができます。

このとき双眼鏡や望遠鏡を使うと金星が三日月型にかけて見えるのがわかります。



## 6月のスポットサイエンス

開催日	プログラム
7日(日)	実験アメンボのふしぎ
14日(日)	牛乳パックヨーヨー
20日(土)	昆虫の体はどうなっているの？
21日(日)	実験ショー『橋の科学 I』
27日(土)	ロボットサッカー
28日(日)	工作『七夕飾り』

### ▼6月のちよこつと工作

#### 『牛乳パックぶんぶんゴマ』

・平日:13:30~16:00  
・土日祝日:10:00~11:30、13:30~16:00

※開催時間などくわしくは、当館ホームページをご覧ください。